



地域と共に歩むコミュニティ・スクール（商業科・情報処理科）

埼玉県立皆野高等学校



皆野高校 コミュニティ・スクール 学校運営協議会 松藤裕也 委員 よりご挨拶（ぼくらのミナノベース 代表）



学校運営協議会委員の松藤裕也と申します。皆野町三沢地区でキャンパススペース「ぼくらのミナノベース」とカフェ「鹿のねどこ」を運営しております。

2021年4月に皆野町地域おこし協力隊としてこの地に移住して早くも3年が過ぎようとしています。協力隊員としての様々な活動の中で皆野高校ともご縁をいただき、こうして学校運営協議会委員として関わらせていただいています。

僕は山口県美和町（現・岩国市）という場所に生まれ、大学入学を機に東京へ引っ越ししました。卒業後は東京を拠点にフリーランスの映像制作者として映画やテレビドラマなどの制作現場で演出に関わる仕事を続けています。皆野町に移住してから映像の仕事も引き続き行っており、2 拠点生活に近い形で生活をしております。職業上、映画やドラマの撮影で日本の様々な地域にロケに行き、長いときには半年以上その地で生活をすることもありました。自分の肌で感じてきた感覚として「どこの地方も、地域の力がどんどん弱っていつている」と感じます。

自分自身の出身地は、皆野町と比較してもさらに田舎で、町には鉄道も国道も信号もありませんでした。小学校行事で信号機のある横断歩道の渡り方の講習があったことは笑い話です。現在では皆野町と同じく、いや更に加速度的に過疎化が進んでおり、状況は深刻です。

様々なご縁でこの町に引越し生活していく中で、時々、僕の故郷とこの町をどこかで重ねて思いを馳せている自分がいることに気づき不思議な感覚に陥ります。大きなことは言えませんが、「地域の力」をつける為に少しでも役に立てることがあるならば、自分のできることをやっていきたいと思います。

残すところあと2年となった皆野高校ですが、最後の在校生たちが思いっきり学び、ちゃんと遊び、しっかり成長して社会に羽ばたける環境作りに少しでも貢献出来たら、という思いを持って、引き続き委員として関わらせていただきたいと思います。

令和5年度 第56回 卒業式 3月12日、皆高ラスト世代が巣立っていきました

皆野高校、3学年が揃っては今年度が最後の年、皆高ラスト世代が大学・専門学校・就職先を決定し、それぞれの道へ巣立っていきました。令和6年度は2年生と3年生で頑張ります。応援をお願いします。



☆ 皆高トピックス ☆

三沢小学校との連携

3月14日（木）商品開発の授業選択生徒などが三沢小へ出向き、ジャガイモの種芋植付作業を児童と交流しながら行いました。今まで本校近くの畑で芋作りを行っていましたが、今後は三沢小と収穫・販売なども連携させていただき「なんちゃって!?みそぼとサブレ」の商品化も継続します。三沢小の学校運営協議会は文部科学大臣表彰を受賞しており協議会の方々の協力により取り組みました。



全国交通安全運動に向けて

今年の「春の全国交通安全運動」は4月6日～15日。この交通安全運動期間中に、本校が毎年取り組んでいる、手作り交通安全お守りを配布しながら、交通安全の啓発活動を、今回も4月9日（火）皆野寄居有料道路料金所所で実施予定です。3学期終業式の直前に1・2年生が道路路公社の方にご指導いただき、お守りを作りました。今までのハート型から、今回ビーズを使ったお守りを完成させました。



令和 5 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立皆野高等学校 ）

目 指 す 学 校 像	校訓（誠実・勤勉・協力・奉仕）の理念の下、 地域の活性化に寄与し、地域社会と産業を支える人材を育成する学校
-------------	--

重 点 目 標	1 主体的・対話的で深い学びを推進し、確かな学力を育成する。 2 地域の人材と資源を活用し、地域と連携した特色ある学びを推進する。 3 思いやりの気持ちの醸成やあいさつの励行を通し、健全な心身を育成する。 4 生徒の特性に応じた進路指導を推進し、地域で活躍する人材を輩出する。
---------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の
学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8 名
	生徒	3 名
	事務局(教職員)	8 名

学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム							
年 度 目 標					年 度 評 価 （ 1 月 3 1 日 現 在 ）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 多様な生徒が入学するなかで、小規模高校の特性を生かし、全教職員が生徒に対して、少人数学習環境のもとで能力や特性に応じて丁寧に面倒見の良い学習指導を実践している。 【課題】 学力幅が大きく、基礎基本が身につけていない状況で入学する生徒もあり、基礎学力や学習習慣の定着と学力向上のために、生徒の学習意欲を高める授業の工夫が必要である。常に個々の生徒に寄り添った丁寧な指導法の研究、授業力の向上が必要である。	生徒に学ぶ意欲を感じさせる主体的・対話的で深い学びによる参加型の授業実践や検定を有効に活用した指導を推進し、基礎学力の定着と学力の向上	①授業研究週間で授業見学と事前事後の研究協議を実施（1・2学期） ②各種検定試験に向け学習意欲を引き出し学力を向上させる（通年） ③スタディサポート（1年生7限目）や補習、自主学習の支援により、学習の個別課題の改善（通年） ④多面的評価方法の工夫改善（通年） ⑤生徒による授業に係る自己評価の結果を活用した授業改善（通年） ⑥AL型授業、ICT機器を活用し生徒の主体的に学ぶ姿勢を定着（通年） ⑦高校通級を通して基礎的ソーシャルスキルにより自立を促す（通年）	①授業研究週間で、相互の授業見学研究協議で意見交換ができたか。 ②検定試験指導を計画的に実施し、目標の合格者数を達成できたか。 ③スタディサポート及び補習等を計画的に実施し、成績優良者の増加、不振者の減少ができたか。 ④各教科で多面的に評価したか。 ⑤生徒アンケートを実施し、評価結果を分析し参考にしたか。 ⑥AL型授業実施、ICT機器活用等により自主的学習に取り組めたか。 ⑦教育支援プランに沿って計画的に指導できたか。	授業の工夫改善により授業が理解できている・だいたい理解できると感じる生徒が約87.3%、また学校生活が大変充実している・充実していると感じる生徒は約78.9% ①2回実施、1回目は平均2.2回見学、2回目は1.5回見学、各週間のテーマを設定し、事前・事後の研修会を設定することで、振り返り会では、具体的な授業改善アイデアが挙がった。 ②きめ細かい指導を実施した結果、生徒一人一人に合わせた適切な指導を行ったが、目標合格者数は達成できなかった。 ③4月から1学年7限目を開始、学習習慣の定着を図った。成績優良者前年度比62.5%増。成績不振者前年度比74.4%減。 ④生徒理解を深めながら各教科で指導を行っている。欠点保有者は減少傾向にある。 ⑤年末に評価結果を分析し、授業改善に活用している。 ⑥「取り組んでいる」「だいたい取り組んでいる」90.1% ⑦計画に沿って指導できた。	B	商業高校としての強みを生かし、体験的な学びや商品開発、資格取得を奨励し、生徒一人ひとりの達成感を高める指導をより一層推進する。また、主体的・対話的で深い学びに関する授業研究について、授業方法のみならず、学習の動機付けを含めた研究授業を実施する等、共通認識を醸成していくことが課題である。 ・一人ひとりの基礎学力の定着を図るきめ細やかな学習指導 ・職員相互の授業研究や授業振り返り会など校内研修の継続 ・多様な検定試験挑戦の奨励と成功体験の機会の確保 ・皆野町・秩父地域との連携 ・早稲田大学との連携 ・ICT機器の積極的な活用 ・多面的な評価の研究
2	【現状】 今年度から生徒募集は停止となるが、本校の生徒たちの地域での活動実績や積極的な情報発信などにより周辺地域から高い評価を得ている。 【課題】 コミュニティ・スクールとして地域の方々の意見を取り入れ、これまで以上に地域と共に歩む学校とする。今後の学校規模縮小にも対応するために町や地域を一層巻き込んだ活動に取り組み生徒活躍の場を創出し、地域社会と産業を支える人材育成を推進する必要がある。	地域唯一の商業高校ならではの魅力ある教育活動の実施と発信	①学校活動や生徒活動を地域へ直接周知させる取組（通年） ②学校活動や生徒活動をHPやマスコミを使っでの発信（通年） ③地域と連携した商品開発による取組の継続、地域人材を活用した講演会等の実施（通年） ④学校運営協議会の実施（4回）と協議会での意見提言の活用（通年） ⑤皆野町・秩父地域、幼小中高大との連携（通年） ⑥秩父定住自立圏との連携（通年）	①地域の協力を得て実施できたか。 ②HP更新回数やアクセス数、新聞等へ取り上げられる回数が増加したか。 ③商品開発、販売実習等を生徒が地域に出かけて実施できたか。講演会等実施できたか。 ④運営協議会を4回実施し、意見提言を活用できたか。 ⑤地域の各連携機関と連携できたか。 ⑥秩父定住自立圏と連携できたか。	①国際交流事業(4月)、進路懇談会(6月)、PTA支部合同懇談会(7月)、人権教育(12月) ②学校HP毎日更新(1/15現在278件、昨年度比1.5倍)、全国交通安全運動お守り・門松の作製配布などの地域貢献活動取組が取り上げられた。 ③販売実習(16回)、外部講師講義(5月) ④7月、9月、11月、2月実施 ⑤幼・小・中・高校及び大学や国際交流事業など20回実施、公開講座14講座開講 ⑥中3対象進学相談会(7月)、中2対象合同説明会(2月)実施、中1対象4高校見学会(3日)、中学校配布冊子(2回)、ちちぶエム(7回)、進路実現支援のためのわいわい講座	A	皆野高校としての最後の生徒が本校で学ぶ価値や魅力を感じる教育活動を推進し、地域との連携を大切にした行事等の取組を工夫する。 また外部人材の力を活かした学校運営、行事等の実践を推進する。 ・包括連携協定に基づき、町役場、商工会と引き続き情報共有を図り連携協力する。 ・小中学校と連携した取組により、生徒の活躍の場を設ける。 ・秩父圏域4高校の行事内容を工夫し、参加者数の増加を図る。 ・秩父定住自立圏事業の活動継続
3	【現状】 教員による毎朝の立哨指導、生徒会による挨拶運動など健全な学校生活を確立する取組や継続的な基本的生活習慣に係る指導により、安心・安全で落ち着いた学びの環境が整っている。 【課題】 自転車事故防止等安全教育の取組。コミュニケーション能力向上等、活き活きと学校生活を過ごすための、全生徒に寄り添った支援が必要である。	適切な生活習慣、規範意識に基づく豊かな人間性の伸長、健全な心身の維持を図るための心のケアの充実	①学校生活アンケートを実施（2回） ②遅刻指導の実施（通年） ③生徒による挨拶運動継続（通年） ④警察と連携した自転車利用に係る指導の実施（2回） ⑤土砂災害なども想定した総合防災訓練等安全教育の実施（3回） ⑥校内委員会を中心に、SC等関係機関や教職員・保護者との連携による教育相談の実施（通年）	①結果をまとめ分析したか。 ②遅刻延べ回数が減少したか。 ③毎週、挨拶運動が実施できたか。 ④自転車事故を防止できたか、講習会等での指導を実施したか。 ⑤消防署員の指導のもと、火災・地震・土砂災害等の訓練において、的確に判断・行動できたか。 ⑥SC等関係機関と連携して活用状況と生徒・保護者の満足度は高まったか。	SC・巡回支援員等外部教育機関と連携、学年を中心とした情報共有を図り、きめ細かな生徒指導に取り組むことができた。 ①年度末に実施予定 ②毎朝の立哨指導により、挨拶励行と整容指導を実施。遅刻延べ回数(12月末現在)前年度比28%減。 ③計画通り実施 ④代表生徒を講師として、講習会を実施(12月)。交通事故0件。 ⑤土砂災害訓練(6月)、火災訓練(7・12月)、地震訓練(9月)計4回実施 ⑥SC(37回)巡回支援員(14回)活用し、生徒・保護者と面談を行った。	A	生徒が主体的に参加できる学校行事の工夫や部活動、生徒会活動を奨励し、自立心を育成する。また基本的生活習慣の定着や挨拶の励行により、社会性や規範意識を育成する。 ・生徒会役員の活躍の機会確保 ・職員の立哨指導による挨拶励行と整容指導の継続 ・SCや巡回支援員等外部専門家を活用した相談体制の継続維持 ・外部専門家による講演会等により新たな知見を深める。
4	【現状】 3年間系統的な進路指導と、生徒の能力や特性に応じた指導の継続により、希望進路を実現させている。反面、卒業後の離職者も少なくない。 【課題】 地域での貢献活動やインターンシップ等の体験を通し、組織的な進路指導をキャリア教育的な視点で取り組み、目標の実現をサポートする。系統的な指導により卒業後の生活を考えさせる中で、望ましい職業観を身に付けさせ、地域で活躍する人材を育成していく。	3年間を見通した系統的・組織的な進路指導により個々の進路意識の高揚	①学年ごとの系統的進路ガイダンスや進路指導の実施（通年） ②秩父地域雇用対策協議会と連携しインターンシップ実施（2年生）、企業見学会への参加（3年生） ③進路決定に向けた面接練習（試験前）、就職後の働き方指導の実施（通年） ④「進路の手引」改善（4月）と活用（通年）	①学年別進路ガイダンス2回以上の実施、各種職業検査や進路対策指導が実施できたか。 ②地元事業所と連携しインターンシップの実施、企業見学会へ生徒が参加したか。 ③3年生がPTAや就職支援員等と面接や指導を受けて成果が出た（3年生試験前1人5回の模擬面接） ④手引きの内容を更新したか、HR等での指導で活用したか。	学年を中心とした年間計画に沿った進路対策・指導を行い、進学・就職希望者の進路決定を達成するとともに、進路意識の向上につなげた。 ①1・2年3回、3年は1回実施 ②3年生が実施（6月） 2年生全員が実施（7月） ③就職支援員、PTA役員の協力により全員実施 ④学校生活の記録シート等を含め、生徒の進路指導に適切に活用	A	地域貢献活動を継続し、郷土を愛し皆野町をはじめ秩父圏域に定住し活躍する人材を育成する。 ・一人ひとりの進路希望を実現するための計画的系統的指導の継続 ・継続的な企業訪問により、学校との安定した信頼関係を維持 ・就職支援員等を積極的に活用 ・全員対象のPTA後援会の協力による面接指導等の継続 ・「進路の手引」の見直しと有効活用の徹底

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和6年2月20日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・学習・生活習慣がままならない環境で育ってきた生徒に対し、懇切丁寧に指導している様子がよく分かります。 ・みんなの高校会議、とても素敵な発案だと思います。皆高関係者はもちろん、全町民を巻き込んで企画・運営し、秩父地域(埼玉県内)に広げたいです。 ・少人数学級の特徴を生かして、生徒の学力を伸ばしている点が素晴らしいと思います。 ・習熟度別・少人数授業、また小テストやノート提出と繰り返し先生方が御指導なされた結果が生徒の授業理解度向上・学校生活の充実につながっている。 ・主体的・対話的に生徒学習に興味をもって活動できるような取り組みが学年によって様々で、各学年でも連携を図り方策を決定していくことが課題と感じる。特に今年度の取り組みで成果を上げた方法については次年度に共有いただき、全校の学習スキル向上を目指していただければと思う。 ・本年度活動をスタートした、みんなの高校会議などを活用しながら、新たな活動につなげ生徒の学業が地域との連携などにつなげていければと思います。 ・習熟度・少人数と生徒の個々にあわせた授業展開、また、どの様に生徒を引き込めるかと工夫をしてくださりありがとうございます。先生方の努力で生徒さんの基礎学力向上を期待しています。	
・地域を背負って立つ人材育成に取り組み、商品開発などを通じた地域貢献活動を、より拡大していくことを願っています。 ・皆高C・Sタイムズの回覧、町報などへの公開講座案内など、地域への情報発信はとてもよくなされていると思います。 ・地域とのコミュニケーション活動について本年度は積極的に活動できていると感じています。次年度もみんなの高校会議などで出たテーマを実行に移してさらなる地域密着の活動を実施していただければと思います。 ・地域あつての学校だと思います。地域の方々の目があるからこそ、危険なこともなく過ごせるのだと思います。 また、地域の方々は皆野高校の行事（お守り配布や清掃、ボランティア活動）を楽しみにしていてくれていると思います。 次年度は3学年そろっての皆野高校ではなくなるため、2学年、教職員、保護者、PTA後援会と全体で協力し、活動を推進していきたいと考えています。	
・平素の地道な取り組みだけでなく、文化祭のような華やかな取り組みも一所懸命さを感じます。 ・生徒の指導が行き届いていると思います。 ・登下校時の様子や自転車通学者のヘルメット着用など、交通安全教育の充実をお願いします。 先生方の毎朝の立哨指導により、遅刻回数が前年度比28%減につながったことは大きな成果だと感じました。 ・挨拶やコミュニケーションは今後生徒にとって、社会とのつながりで一番重要な要素となります。日頃から先生などとのコミュニケーションなどで向上を図れていると思います。しかし生徒個々の成長スピードや苦手意識をもった生徒もいますので、引き続き必要な基礎知識やコミュニケーションの取り方など、苦手意識をもった生徒を中心に対応頂ければと思います。 ・多様な生徒さんにそれぞれ寄り添い、教職員全体で情報を共有して、適切な対応をしていたらできると、生徒は安心でき、学校・他者とのコミュニケーションにも意欲が上がるのではないのでしょうか。	
・最近、環境の変化に弱い若者が増えているように思います。耐性がなく、がまんできません。顔を合わせた対話も苦手です。対人関係は重要です。つながりを大事にしてほしいです。 ・きめ細かい指導により、十分な成果が出ていると思います。 ・3年生の就職希望者・進学希望者とも、希望者全員進路決定ということに対して、先生方の指導の賜物と考えます。一人一人丁寧な指導が行き届いた結果だと思います。 ・皆高だからこそ生徒一人ひとりを大切にできる教育がなされているように感じます。 秩父地域の企業合同説明会など積極的に参加していると思います。今後、秩父地域以外への説明会などへも積極的に働きかけや参加をして、生徒の職業領域の拡大が必要と感じます。就職先の拡大＝生徒の成長が、将来様々な職種が秩父に戻ってきて起業するなどにつながると思います。また、手帳就労についても皆高には重要な課題となります。通常の就職以上に企業への働きかけも引き続き実施いただければと思います。 ・複数企業へインターンシップに行ければ、その企業がどんな仕事をしているのか理解しやすいのではないのでしょうか。	